

# 2025年クリスマス・メッセージ

## 小海 基・荻窪教会牧師

〈2025年クリスマス・メッセージ〉  
主の貧しさによって

小海 基



〈カット・杉本功雄〉

あなたがたは、わたしたちの主・イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。

(Ⅱコリント8章9節)

クリスマスおめでとうございます。

イエス・キリストが私たちと同じ人間の体をとってベツレヘムの家畜小屋でお生まれになったことを祝うのがクリスマスです。クリスマスのシーズンには、クリスマスの星や、飼い葉桶に寝かされた

赤ちゃんの人形(クリツペ)、徹夜で羊の群れの番をしていた羊飼いたち、黄金、乳香、没薬を携えた三人の占星術の博士……といったイメージが世界中で溢れます。これらは皆、マタイやルカ福音書に出てくるイメージで、新約聖書の中では比較的後に書かれたものです。

しかしながら新約聖書で最も古い主イエス・キリストの到来を伝えるパウロの手紙には、そうした事よりもその本質、意味が語られるのです。それが「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた」という言葉です。神の御子が私たちを救うために、「神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリピ2・6-8)と、パウロは当時歌われていたと思われる「キリスト賛歌」の歌詞を引用しながら描いています。これ

は神学用語で神の子の「謙卑・へりくだり(ケノシス)」と言われることで、初代キリスト教の中でクリスマスを表現することは、神の子の「受肉」の本質を語る事であったことを示しています。クリスマスは単なるイエス・キリストの誕生日の祝いではなかったのです。

異邦人キリスト者の数が増え、キリスト教迫害の歴史も終わり、キリスト者が少数派から多数派に変わっていく中で、いつの間にかこの「主の貧しさ」がまるで「權威」、「栄光」であるかのように入れ替わってしまうことに、私たちは注意しなければなりません。これは「主の貧しさ」をこそ、教会はこのクリスマスの時期に伝えなければならぬのです。商店街でもお寺や学校でも「クリスマス」が祝われていることで良しとするのではなく、その本質は「主が貧しくなられた」ということであり、その厳粛な事実私たちが誰もがハッとさせられ、静まりかえらずにいられないということなのです。